

平成27年度 宇都宮市食育推進会議 議事録

■ 日 時 平成28年2月16日（火）午前10時～午前11時

■ 場 所 宇都宮市役所14階 14A会議室

■ 出席者

1 委 員（15名）

大森玲子委員，増渕一基委員，金田晋平委員，清水昭子委員，倉田孝明委員，
澤田博子委員，山崎昌子委員，細谷タミ子委員，伊沢栄子委員，中野智之委員，
刑部郁夫委員，見形繁委員，寺内美栄子委員，荒川昭子委員，青木浩子委員

※欠席委員：佐々木均委員，遠藤秀樹委員，長谷川英一委員，岩本眞砂枝委員，
堀内英夫委員

2 事務局（15名）

[保健福祉部] 部長，参事兼保健所長，保健医療監

[健康増進課] 課長，課長補佐，健康増進課健康づくりグループ係長，職員4名

[学校健康課] 学校健康課学校食育グループ係長，職員1名

[農業振興課] 職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 なし

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，了承
- ・ 所定の手続きにて事前に周知したが，傍聴希望者はなし

2 あいさつ（保健福祉部長）

3 委員の紹介

4 会長・副会長の選出

- ・ 宇都宮市食育推進会議規則に基づき，委員の互選により，会長には第2号委員・大森玲子委員，副会長には第1号委員・増渕一基委員を選出
- ・ 会長・副会長よりあいさつ

5 議 事

- (1) 報告事項 「第2次宇都宮市食育推進計画」の進捗状況について
- (2) 協議事項 平成28年度「食育に関する意識調査」について

6 委員からの主な意見・質問等（要旨）

- (1) 報告事項 「第2次宇都宮市食育推進計画」の進捗状況について

● 委 員

- ・ 基本施策4「農や環境への理解を通じた食育の推進」において、平成26年度の評価がCであるNo.53「生ゴミ堆肥化の推進」について、生ゴミ処理機の利用者が減っているということだけを評価せず、生ゴミ自体が減っていることも鑑みる必要がある。生ゴミ処理機の利用者が減った理由や背景を説明した方が良いと思う。
- ・ 同じく基本施策4の重点事業である、No.46「うつのみやアグリファンクラブ事業の推進」とNo.50「学校給食における地産地消の推進」について、評価が困難とした理由を説明して欲しい。

○ 事務局

- ・ 計画策定の際に指標を立て、その値を基準に評価をしている。学校での教育の効果もあり、子ども達による家庭のゴミの分別の徹底も、年々増加しているという声も聞こえてきており、ゴミの排出量が減ってきているという背景があるが、評価の際には現行計画の目標設定値で用いる必要があるため、C評価となってしまう。次期計画策定の際には指標の設定についても見直しを検討する。
- ・ No.46「うつのみやアグリファンクラブ事業の推進」が目標設定困難な理由は、計画策定時に、農業に関する情報誌の郵送部数を目標値として設定していたが、年度途中からメールマガジンによる周知啓発に変更したため、実績を比較するのが困難であると評価した。今後、手法が変更になった際は目標設定を変更する等の検討を進めていきたいと考える。
- ・ No.50「学校給食における地産地消の推進」が目標設定困難の理由は、学校給食の米飯について、以前は各小中学校とも週3回実施、更に年10回追加して実施していた。しかし、現在は自校炊飯を進めており、平成25年度に自校炊飯設備の整備が終わった中学校では平成26年度より週4回米飯を実施しており、小学校については今年度設備の整理が終わったため、平成28年度より週4回の米飯の実施を予定している。過渡期である平成26年から平成27年については、小学校では週3回の米飯、中学校では週4回の米飯と混在しており、評価困難とした。なお、平成26年度の実績としては全体平均で3.6回である。

● 委 員

- ・ ゴミが減っており、成果が上がっているので大変良い。

● 委 員

- ・ もし可能であれば、ゴミ排出量の推移の資料があれば、より信憑性が高くなる。

● 委 員

- ・ 宇都宮農業協同組合で、現在、取り組んでいるもの等はあるか。

● 委員代理

- ・ 今後において、地場産農産物の消費拡大のため、広い視野で取り組んでいく予定である。また、米の消費拡大を図る取り組みとして、「うつのみやはじめてのごはん」という、1歳6か月健診会場で、幼児期の子どもがいる家庭に宇都宮産米の配布を行った。初めて食べるご飯は宇都宮産のものという思いで取り組んでいる。

● 委 員

- ・ 増淵一基委員は何か意見等はないか。

● 委 員

- ・ 食事は、生きるために欠かせないものである。自分たちの住んでいる地域のことも考え、地産地消を推進していくことが重要である。また、食事だけが食育ではなく、生産者のことも目を向けた方が良いと思う。

● 委 員

- ・ アンケートの中にも、地場農産物をできるだけ購入するという項目もあるので、市民の状況をしっかりと把握していただきたい。

(2) 協議事項 平成28年度「食育に関する意識調査」について

● 委 員

- ・ 小学校及び中学校での、お弁当の日はとても効果が出ていると、保護者として感じている。日頃、家族で料理をすることは、なかなか難しいが、お弁当の日は子どもがメニューを考えるとところから始まり、自分でお弁当をすることで、徐々に料理ができる子が増えていると感じる。また、高校生の授業参観をみると、社会の様々な課題に言及しており、学生の意識が非常に高いことが伺える。アンケートでは成人のみの項目も多く存在するが、子ども達なりの考え・意見があるので、もっと子ども達への質問も増やしてみてもどうか。

○ 事務局

- ・ いただいた意見を基に、今後、アンケートの内容を検討していきたい。

● 委 員

- ・ 高校生の食育の問題として、若い女性のやせがあるが、これからの将来に向けての大きな問題である。アンケートとるのであれば、是非、原因をつきとめて欲しい。

○ 事務局

- ・ アンケートの質問内容に体重等の項目があるので、それらと関連した項目を設定することで、原因を把握できる可能性があると考えます。なお、若い女性のやせの理由を把握するためにも、項目の設定について検討していきたい。

● 委員

- ・ 咀嚼の問題について、4つの学校の子ども達を対象にアンケートをとった結果、家庭で柔らかいものが出ており、噛めなくなっているという回答があった。力を入れるべき課題ではないか。

● 委員

- ・ やせも問題だが、肥満も同じように問題であり、原因をつきとめる必要があると思われる。また、肥満の方がどのように考えているのかを把握した方がよいと思う。例として「よく噛まない」「食事の時間帯が不規則」「栄養バランスが悪い」「カロリーを気にしない」などの項目をアンケートに盛り込めば、今後、改善策を検討する際に参考になるとと思われる。

● 委員

- ・ お弁当の日の成果について意見があったが、学校の現場では、どのような成果が上がっていると考えているか。また、家庭で柔らかいものを食べている子どもが多いという意見があったが、学校給食において、硬い食べ物を出すなどの工夫をしているのか伺いたい。

● 委員

- ・ 学校では、お弁当の日の前に、子ども達に計画カードを配布し、子ども達自身で計画させ、実施後は振り返りカードを配布し実績をとっている。子ども達自身に評価をさせると、次回はもっと頑張る等の向上心が見られ、子どもの意識が向上していると実感した。給食についても、子ども達が苦手な海藻や豆などの食材やそれらを使った郷土料理を意識して献立に取り入れ、苦手とされる食材について言葉や文字も説明し、給食を食べてもらうよう工夫している。これにより、残食率の低下や、郷土料理への意識の高まりを実感している。

● 委員

- ・ アンケート調査の属性について、成人は18歳以上となっているが、高齢者の割合はどのくらいか。

○ 事務局

- ・ 前回のアンケート調査では、成人の対象者にアンケート用紙を郵送し、45%の方から回答をいただいた。回答者のうちの、高齢者の割合は33.6%であり、今回想定する成人5,000人対象とすると、高齢者は約600~700人程度と想定できる。

● 委員

- ・ 郵送でアンケート調査を実施した場合、回答率が3割を超えれば良いという研究結果もあるようなので、45%は良い結果と考えられる。

● 委 員

- ・ 先ほど、高校生への質問項目を増やした方がよいと発言したが、前回の平成23年度と比較するというのであれば、同じ質問内容の方が良いと思われる。また、食育フェアの際、歯科医師会のブースで、咀嚼力判定ガムを体験したが、自分の目で見て、判断できて、とても良い刺激となった。今後このような催事が増えるといいと思われる。

7 その他

今後のスケジュールとして、次回の宇都宮市食育推進会議としては、来年度に食育に関する意識調査を実施し、その結果を基に現行計画の最終評価及び次期計画の策定をするものとする。本日いただいた意見を基に事務局で検討し、大森会長に確認のうえ、今後の進行管理や意識調査の内容に反映する。

8 閉 会